

## 令和3年度（2021年度）第1回南区まちづくり懇話会 会議録

- 1 日時 令和3年（2021年）7月29日（木）午前10時～12時
- 2 場所 アスパル富合研修室
- 3 出席者 計34名
  - ・南区まちづくり懇話会委員 16名
    - 柴田委員（会長）、平井委員（副会長）
    - 前出委員、榊田委員、吉本委員、森委員、村山委員
    - 正木委員、島田委員、永井委員、堀川委員、土井委員、村中委員
    - 仁科委員、北岡委員、宮崎委員
  - ・事務局（熊本市職員） 18名
    - 南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、区民課長、土木センター所長
    - 福祉課長、保護課長、保健子ども課長
    - 南区管内まちづくりセンター所長（6名）、総務企画課職員（3名）
- 4 配布資料
  - ・次第
  - ・熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱
  - ・南区まちづくり懇話会概要
  - ・資料1-1 将来を見据えた新たなまちづくりへのチャレンジ
  - ・資料1-2 2040年に向けた熊本市（南区）の課題
  - ・資料1-3 他都市におけるまちづくり活動事例
  - ・資料2 令和3年度南区まちづくりの取り組み（A3版）
  - ・資料3 空白地域乗合タクシー運行実績
- 5 内容
  - (1) 開会
  - (2) 区長挨拶
  - (3) 委員紹介、会長、副会長選出
  - (4) 意見交換
    - 議題1 まちづくりの新たな方向性に関して
    - 報告1 令和3年度南区まちづくり推進事業の進捗状況について
    - 報告2 本年度の重点取組について
    - 報告3 まちづくりセミナーの開催について
  - (5) その他
  - (6) 閉会

## 6 会長、副会長選出会議録

(事務局)

「熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱」第5条には会長及び副会長についての記載がございます。本日は第1回目の懇話会のため、会長及び副会長の選出を行います。会長、副会長は要綱第5条第2項により、委員の皆様の互選による選出となります。まず、会長の選出をいたします。どなたかご推薦はございませんか。

(前出委員)

昨年度からコロナで思うように懇話会が開催できていなかったこともあり、再度柴田先生にお願いしたいと私は思いますが、皆さんいかがでしょうか。

(事務局)

ただいま前出委員から柴田委員を会長にとのご推薦をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

(事務局)

柴田委員を会長ということでご承認いただけるということであれば、拍手をお願いいたします。

<委員一同 拍手>

(事務局)

ありがとうございます。次に副会長の選出を行います。柴田会長からのご推薦はございますか。

(柴田会長)

今回、第5期委員ということですが、第3期からまちづくり懇話会委員を務めていらっしゃる平井委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(事務局)

柴田会長から平井委員を副会長にとのご推薦がございました。皆様、ご承認いただけましたら、拍手をお願いいたします。

<委員一同 拍手>

(事務局)

それでは、平井委員に副会長をお願いいたします。

## 7 意見交換会議録

### ① まちづくりの新たな方向性について

【資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3 に沿って事務局から説明】

(柴田会長)

今年新しく委員になった方もいらっしゃるので、改めてこの懇話会がどのようなことをする会なのかを改めて説明させていただきます。この懇話会の場は、何かを決定する場ではありません。しかし、様々な地域の代表の方、そして様々な分野で活躍されている方に集まっています。それだけでなく、各まちづくりセンターの所長、担当職員の方も来られていますし、区長をはじめ部長、関係部署の課長も来られています。これは、皆さんが普段活動されている中で、「南区は、こんなふうにやったらもっとよくなる」と感じていらっしゃることをここでどんどん言っていただくと、直接区長の耳にお伝えすることができるし、各まちセンの担当の方にもお伝えすることができるということ。

私もこれで5年目になりますが、ここで言った多くのことが実現したり、何かのきっかけになって、具体的に区が動いてくれたりしたということがたくさんあります。もちろん、難しかったこともあります。ですので、これから皆さんには積極的にご意見をおっしゃっていただきたいと思います。

そして今日のポイントはこの資料 1-1 のこの 1 枚だと思います。これまでの取組みである従来の自治会を中心とした活動、そして目の前にある課題、そして南区としてのビジョン、これももちろんやっていく重要なことだけど、これからそういったものだけでなく、NPO を初めとしたテーマ型と言ったりもしますけども、そういったものもたくさん支援していこう。さらに将来を見据えた課題にも対応していかないといけない。そして区全体のビジョンも重要だけど、冒頭、区長がおっしゃっていたとおり、やはり南区は本当に多様なんですよ。人口が増え、子どもが増えている。教室が足りない小学校もある一方で、人口が減少し、子どもの数が減り、小学校を統廃合しなければいけないような場所もある。校区単位でもビジョンを細かく考えていく必要があるだろうということです。

この第5期の2年間は、これに向けたチャレンジの大きなベースを作る、議論をしていく、と考えていただきたいと思います。

そのための材料として、資料 1-2 で現状を説明していただき、さらに、ごく一例ではありますが、他の都市の事例もご紹介いただいて、今日の議論、意見交換のきっかけになればということで用意していただいたと思います。

この熊本市もしくは南区の課題に関すること、この資料を見てでも結構ですし、普段の活動、取組みや生活の中で、感じていらっしゃる課題や事例、これからの取組みにつながるようなご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。どなたからでも、どの観点からでも、単純なご質問でも結構です。まずはベテランの正木さんからいかがでしょうか。

(正木委員)

農家の場合、土地利用の問題があり、農業の専用地域は自由に建物を建てることができません。住民が増えないというのは、規制がかかっていて、そういう不便さがあるということです。若い人は車が使えて、どこにでも買い物に行けるけど、高齢者になると免許返納している人もいて、交通の不便さから買い物に行けなくなり、買い物難民のようなことになりました。そこで、不便なところにスーパーを建てて欲しいのに、建てられないんです。このような規制については、南区だけではないと思いますけど、地域からの要望ですので挙げました。

(柴田会長)

ありがとうございます。ご意見ということで、土地利用の規制があって、例えばスーパーがあれば、買物難民の解消につながるのに、建てたいところに建てるができないという問題がありますというご指摘でしたね。その他にはいかがでしょうか。

(北岡委員)

今、買物難民の話がありましたが、以前、御幸のJAが買い物の不便なところに、野菜、肉、魚などをワゴン車に積んで不便な地域を回りました。結果として、もう今はなくなりました。なぜかという売れない。1日10万円売らないと経費が浮かない、収入に結びつかない、そういう問題がありました。

(柴田会長)

ありがとうございます。それは北岡さん達のグループが、移動販売を運営されたということですか。

(北岡委員)

それはJA熊本市が、御幸の農協支店を拠点にして実施し、私たちも野菜を出荷したりしていました。発想はとてもよかったと思うんですけど、なかなか思うようにいかなかったという事例。でも今後も必要なことではあると思います。

(柴田会長)

ありがとうございます。JAがやった移動販売ですね。1日10万円の売上げが必要なんですね。その他はいかがでしょうか。

(宮崎委員)

ニーズはあるはずだけど移動販売をしたところ全然売れないという、ミスマッチが起きているという現状があります。自家用車を前提としたまちづくり、加えて、市民の方の自家用車前提での生活習慣が根強く残っている現状が、そのミスマッチを生んでいると思います。

西区の芳野校区、河内校区は、ローソンさんの移動販売を今年6月から始められました。

その売れ行き等は、まだ私も調査をしていませんが、周知徹底、そして、皆さんのニーズに  
応えられる商品が並んでいるのか、価格帯はどうか、などを総合的に勘案して、売れなかつ  
たらその課題を、住民の方、ローソンさん、そして熊本市で解決していかれるのかなと思ひ  
ます。

市民の中に情報をしっかりおろして、移動販売が来るから自家用車で行かなくていいと  
か、逆にスーパーを近くに作って、そこまでは公共交通機関を出す、となると利便性も上が  
ると思います。交通空白地域の対策では乗合タクシーなどをされていますが、利用者数が伸  
び悩んでいるという話も聞いております。それもバスの利便性や、その巡回方法、予約の方  
法なども課題として挙げられています。特に飽田、天明、城南、富合など乗合タクシーを生  
かしてらっしゃる各まちセンでは、利用者の方のニーズの把握に努めていただきたいと一  
住民として思うところです。

(柴田会長)

ありがとうございます。飽田、天明辺りの実態で何か感じてらっしゃることはございま  
すか。前出さん、お願いします。

(前出委員)

私の住む飽田東校区は、様々な誘致をしようとは何回もするのですが、規制がかかってい  
て進まないわけです。ただ、今は各地域にまちづくりセンターがあるので、困ったらまずまち  
づくりセンターに相談しています。相談すれば、ある程度のことは進んでいくと私は感じて  
おります。

(柴田会長)

どうもありがとうございました。はい、仁科先生お願いします。

(仁科委員)

皆さん方の買い物困難地区がある、店ができないという話なんですけども、滋賀県高島市  
というところで実際に行われている事例をお話します。

滋賀県高島市も高齢化が進んで、湖の周りの町の部分と、それから福井県につながる山側  
の部分があり、非常に買い物に困難な地域があります。そこに「ぎょうれつ本舗」という冷  
蔵庫付きの軽トラックが何台か連なって、パン、野菜、それからおかずを売っているという  
ものがあります。ここは、障がいを持った人が働いていて、障がい者就労支援事業を行っ  
ている社会福祉法人が、そういった過疎の地域に、週に1回お店を持って行くということを軽  
自動車で行っています。

これはなぜできるかということ、障がい者就労支援事業には補助金も入っていますし、寄附  
によって軽トラックに冷蔵庫をつける、ということが行われています。こういう店ができな  
い地域というのは、人口が減って人口密度が非常に低く、市場ではお店ができない状態の地  
域が多いです。だからここに一般的な営利企業が入ろうとしても、採算性がとれないという

難しいところがあると思います。

障がい者の就労支援事業を行っているような社会福祉法人や、あるいは市の補助金、そういうところを使って、皆さんの要望に合うようなものができていくしかないと思います。それで、この新たなまちづくり組織への支援というところは、市場でできるものは営利企業がやってくれるんですが、市場の中に成立しないようなサービスや、販売権のようなものは、何らかの資金をどこからか投入していかないと成立しないと思いますので、そういった組織を作っていく、あるいは、応援していくような仕組みが必要だと思います。

(柴田会長)

どうもありがとうございます。はい、正木さん。

(正木委員)

説明はよく分かるんですが、農家の土地が第一種農業専用地域で、建物を建てられないんです。企業が入って建てたいと言っても、行政が建てさせてくれないんです。だから高島市と事情は別です。

(柴田会長)

はい。今、話題が二つあって、正木さんがおっしゃっている「建物を建てたい、もしくはスーパー以外のものも建てたいけど建てられない」という土地利用の問題があるということと、それからそれを克服するために、北岡さん、宮崎さんがおっしゃった、「移動販売で対応すればいいのではというアイデアもあるんだけど、それはそれで採算性の問題から非常に難しい」ということ。それで今、仁科先生からは、それを移動販売だけを目的にすると採算は取れないけど、障がい者支援という、また別のテーマと組み合わせると、うまく回っているというお話だったと思います。この違う分野を組み合わせるといことは、熊本地震後に南区のビジョンを改定したときも、この場でずっと議論してきたことです。ずっとこれまで子育ては子育て、農業は農業、観光は観光というふうに、各分野で南区の施策も市の施策もやってきたんだけど、現場での皆さんの取組みはそんなことはやっていなくて、色々なものを組み合わせて一緒にやっています。やはり組み合わせるといった方がよりよくなるんじゃないかというお話ともつながってくるお話だったのかなと思います。とてもいいお話を紹介していただいたと思います。

一方で、正木さんがおっしゃることも切実な問題であるということですよ。

はい。榊田さんが手を挙げました。

(榊田委員)

天明地区では今は主にトマト、なす、きゅうりそれからメロン、その他に作っておられるものもあるかと思います。

通常、品物を届けるのに1日か2日早めに収穫しなければならない。届いたときに傷んでいるということが、東京や大阪で発生することはできませんので、そこに届いたときに、消

費者が1番いい品物だと思ような品物を、前もって収穫しているということです。そうすると本当は1番おいしいところが残ってしまう。トマトの完熟に近いものは出荷できない。これは流通過程で、全部傷んでしまうために流通しないということです。それをいかに活用できるかということで、NPO法人などに手助けをしていただいて、小さいながらもいい品物を、地域もしくは近郊の大都市まで届けるようなことができないかと思っているところです。農家では、流通に乗せられないということで、捨てられる方もいらっしゃるし、自分のところで一生懸命消費されたり、近所に配ったりされている方もおられます。そういう1番おいしいところを集めて、何か活用できないかなというのが今思っているところです。

それから天明地区は、海拔0m地帯で高潮の心配もあり、人吉で被害があったように線状降水帯ができてしまうと、全部浸かってしまうんじゃないかと思います。幸いなことに排出のポンプがフル稼働していて事なきを得ている地区です。

また、過疎問題があって、小学校が4校あるんですが、4校が統合されることはもう決まっています。4地区ともそれぞれ長い歴史があり、農業の専業地区ですが、農業の地盤だけでは働くところがなく、結局離れていってしまい過疎になっています。それで何か核になるものが一つ欲しいんですけど、そのために学校などに集まって、人的な活性化ができないかなと思っています。

(柴田会長)

どうもありがとうございます。最初におっしゃったのは、量は少ないけどいいものを、まさしく地産地消するということだと思うんですね。農業分野はコロナの影響で、大規模2大都市に出荷している農家さんほど被害が大きくて、地産地消で小さく地域で回している農家さんの方は何とかできているという実態があるんですね。

そういったことも含めてとてもいいお話だと思いますし、逆に廃校を使ってそういうものを販売するという方法もあると思います。直接販売だけでなく、ちょっとしたランチだけやるような施設として廃校を利活用していくということもできるかなと、今お話を伺いながら思いました。

やはり地域の方のお話を聞いたほうが早いかなと思います。幸田の吉本さん、いかがでしょうか。

(吉本委員)

私が住んでいるのは田迎西校区で、医療機関や商業施設もきちんとそろっていると思います。ところが御幸木部辺りになると、新しい家は増えている一方、水害の心配があり、またちょっとしたかかりつけ医がいなく、救急や消防の関係になると、川尻からくねくね道で大変な思いをして出張してこれないといけない。私の家あたりは消防局から6分ぐらいで到着するのに、(御幸周辺は)15分か20分ほどかかります。消防は、地元消防団がいらっしゃってある程度対応できると思いますが、救急になるとその何分かで生命の維持確保が困難になる場合もあり心配です。

商業施設もあまりなく、高齢化も進んでいて、ちょっとした買い物をするにしても不便と

いう意見もあります。水害についても、いざ避難するには学校まで遠いし、堤防が決壊してしまったらもう終わり、というような意見を伺っています。また金融機関も遠いという意見も聞いております。

(柴田会長)

ありがとうございます。便利に見えるけど実はそうでもない、実態を細かく見れば色々あるということですよ。それでは城南の村山さん、いかがでしょうか。

(村山委員)

私が住んでいる校区は、小学校の児童が年々減少しているのですが、隣の校区はパンク寸前の状態です。子どもが少ない学校というのはそれなりにいいところもありますが、このままいけば他の学校との統廃合になるのではと、心配な面があります。

(柴田会長)

ありがとうございます。小学校がなくなると地域が一気に暗くなるというか、活気がなくなるというような場所をたくさん見てきましたので、小学校の統廃合はとても大きな問題かなと思います。一方で先ほど話に出た天明地区のように、廃校の利活用もありうるかもしれないと思いました。

では南部の森さん、いかがでしょうか。

(森委員)

私の住んでいる川尻校区のことをお話ししますと、まちおこしのイベントなど、かなり色々なことをやっています。この間始めたばかりですが、地域で「ワッショイポイント」というポイント制度をつくりました。地域の中の色々なお店に加盟してもらい、そこで買い物をするとポイントが貯まり、そのポイントで買い物ができる仕組みです。他にも地域の中でお祭りをやったり、色々な取組みをしていますが、問題なのはその持続性。幸い今は、40歳代ぐらいでそれを引き受けてくれる人がいます。学校のPTAなどもそうです。昔に比べて共働きの世帯が多く、地域づくりの活動をしようというときに、時間を割いて出てきてくれる人がどんどん少なくなるという感じもします。どうやって時間を使って、魅力的なまちづくりをすることに参加してもらおうか、そういったところの難しさがあると思います。

もう一つは、昨年台風が来たときに、川尻は高潮の被害を受けやすいということで、川尻小学校がその地域に含まれていることから避難所に指定されませんでした。普段は指定避難所になっているのですが、ぎりぎりになって避難所として使えないという通知が来ました。その周知が間に合っていないくて、高齢者の方が間違っって避難して来てしまったという問題がありました。ただ、広くて住民を受け入れられる場所というのは学校ぐらいしかないので、うまく活用するようなことを考えていけたらなという意見が出ていました。

(柴田会長)

ありがとうございます。1点目のこのワッシュポイント、これは商店街でしょうか。

(森委員)

商店街連合会です。

(柴田会長)

はい、ありがとうございます。それから二つ目の避難所の問題は難しい問題だと思いますが、土井さん、何かありますか。

(土井委員)

風水害と地震とでそれぞれ避難所の対応が違うので、そちらは行政の方にお話いただけるかと思います。

以前、(福岡県)津屋崎に視察に行ったことがあるのですが、そこでは市民の声を拾い上げるというところで、子どもと高齢者また障がい者が集う場を行政や、その校区の代表の方などが定期的に作られていました。地域の縁側というものをあちこちにつくっていて、そこに常に子どもも来て声を上げて、色々な人の声を拾いやすくなっています。そこからチャレンジ事業というものもされていてとてもいいなと思ったので、何かそういうことができるといいと思います。その中で、避難のことについても話していけたらいいんじゃないかと思いました。

(柴田会長)

ありがとうございます。南区でも校区で防災のことを色々やっていますから、そういった場も、さっきの話じゃないですけど、色々組み合わせたらいいと思うんですけど、今日は防災のことだけ、というようなことをやっているとな縦割りになってしまうんですけど、せっかく集まっていたくのであれば、日常の困り事もそこで話し合えるような場になっていけばいいんじゃないかと、縁側の事業の話聞いて思いました。

では子育て代表の堀川さんはいかがでしょう。

(堀川委員)

先ほどのおいしいトマトが余っているという話で考えたんですが、私どもの校区では子ども食堂のようなものをやっていて、食材はフードバンクから調達することが多いです。フードバンクは私どものような子ども食堂をやる方や、ひとり親家庭のお世話をする団体を經由して、ひとり親家庭の方に食材を提供したりしているところです。余ったお野菜とかお肉など生鮮食品も割と短いスパンで消費できるところが、フードバンクなのかなあと思うんですけど、そういうところを考えの中に入れていただくと、利用者としてはありがたいと思いました。

うちの校区はフードバンクと、済生会病院さんが大きな力を貸してくださっています。だ

から校区の中の事業所さんを味方につけるといところで、他の校区とちょっと違う活動ができています。PTA役員をして地域の方と知り合いになり、長い間地域に関わるようになって、どうしても自分の校区のお世話をする人材だけでは継続できないことがあります。やはりその地域に長く目を向けてくださる産業と一緒にあって、活動するというのは大事なことだと思います。

あと子育てサークルを各校区でやっていますが、熊本市の施設を利用しているサークルがほとんどです。コロナの影響で市の施設がストップしてしまうと、サークルが開催できなくなります。私の校区は畳敷きの広い地域の公民館でやっているので、コロナ禍の中でも公民館を開放してもらい開催できています。他の校区の方、地域の方も来られていますが、ぜひそのサークルに地域の広い会場を、子育ての場に提供していただくと小さい子を抱えるお母さん達のストレスも減るかなと思って、それをお願いしたいです。

(柴田会長)

ありがとうございます。最初の子ども食堂の話は、先ほどのお話と一緒にですね。捨てられているようなでもおいしいものを使える場所として最適な場所かもしれません。それから会場の問題ですね。この(資料 1-1)左側の「これまでの取組み」の方は、地域公民館があるのでそんなに困ってないんです。でもこちらの(資料 1-1)右側の「これからの取組み」の方は、実は皆さん会場に困るんです。ちょっと集まって話し合いをする場所にも困るんです。非常に重要なご指摘です。こちらの取組みを支援するためにはその会場ですね、場であり場所の確保というのは、とても重要な問題だと思いました。

済生会病院のように事業所の連携という言葉がありました。村中さん、いかがでしょうか。

(村中委員)

この南区の課題で、空き家についてはどの辺りに集中して空き家があるのかをお聞きしたいです。人口減少の原因が、働く人たちが県外に行って働いているのか、子どもが大学卒業して県外に行くのか、など色々な問題があると思います。

今、自分は共働きで子育てをやっていますが、子どもが2人いて別々の保育園に預けています。一方では、同じ兄弟が同じ保育園に通っているところもあり、そういうちょっとした問題ですが、働きやすさというものがまちの魅力につながっていくのかなと思っております。全部つながっているのかなと思います。

空き家は今の辺が多いのか教えていただけませんか。

(柴田会長)

はい、空き家の分布について事務局からいかがでしょうか。

(江区长)

空き家について今手元に資料を持ってないですが、基本的には中央区の方が空き家が多くなっています。南区に関してはどちらかといえば熊本地震の被害が大きかったので、公費

解体もあってある程度進んでいる状況です。

それから人口減少の話がございましたけれども、社会減と自然減両方ございます。社会減に関しては大学進学、あるいは就職で、福岡や3大都市圏に若い方々が転出されるということ。それと自然減に関しては、子どもを産める世代の方々が少なくなっていて、どうしても現状を維持しようとすれば、1人の女性の方が3人以上子どもを産まないという人口維持ができないという実情がございます。

(柴田会長)

ありがとうございます。この空き家の分布は、南区の中での分布の特徴のようなものもデータとして整理すれば出てくると思います。その辺をまた待ちたいと思いますが、昨年度、南区の中には農業高校があるんですけど、普通科の高校がないという話もありました。高校から宇土市や中央区の方に行かざるを得ないという状況はあるので、その辺も影響は大きいんじゃないかという話が、去年ありました。

それでは歴史文化の島田さん、いかがでしょうか。

(島田委員)

私は、富合町文化協会の役員をしております、富合町が市と合併したときに、熊本市には文化協会というものがなくて、富合町からいただいていた補助金の出所がなくなってしまいました。合併して3年はいただいたんですが、その後ゼロになってしまいました。県は文化協会があるんですけども市にはなく、城南町がその後合併しました。そこで、南区文化協会というものを立ち上げ、平成27年に熊本市地域文化創造協議会ができて、市から補助金をいただくようになりました。南区と北区は文化協会があったのですが、そのほかの西区、中央区、東区はなく、それぞれに立ち上げるような構想になっています。

富合町のときから延べ人数300人の会員を目指していましたが、ここ3年くらい地震から減って、コロナで活動ができなくなり、それに高齢化もありまして、300人どころか100人を切るんじゃないかという状況です。どうやって会員を増やしていくかというのは今からのテーマになっていて、役員自体も最低6名は必要なんですけど、今のところ3名しかおりません。どうしようかと3人で悩んでいるところです。

(柴田会長)

ありがとうございます。市に文化協会がないという話を私は初めて伺いましたので、ちょっとびっくりいたしました。やはり文化の面もこの新しい組織という点で非常に重要な組織かなと思います。

永井さん、自然環境ということでよろしく願いいたします。

(永井委員)

南区もたくさんの農地や色々な資源があるのですが、それを守っている活動組織があり、私は天明環境保全隊で山の下草刈りや海の清掃活動等の共同活動をしています。そこで

思うのは、活動に参加して地域に関心を持ち理解していただく、その繰り返しが1番いいのかなということ。色々な人に参加してもらえないとわかってもらえない。農村地域の活動についてレベルアップ、底上げのためには、教育しかないと思っています。私たちは、子どもたちの体験学習会や出前講座をしたり、山に連れて行ったりなどをやっていますが、昔の「米百俵の精神」で継続していきたいです。住民の意識の向上、子どもの教育をやっていくのが大事で、そういった組織を市にお任せじゃなく、その場づくりの支援をしてレベルアップを図りたいと思います。

(柴田会長)

ありがとうございました。今人口が増えているところは子どもも増えているんですけど、それは、南区外から来ている方も多いです。元々南区は自然豊かだけど、触れたことがない子どもさんも多いんですね。だから今おっしゃったように、南区は自然が豊かで、歴史も豊かなんですけど、そういったことを知らない子どもさん、親御さんもいらっしゃるということで、自然に関する教育の問題というのは、非常に重要な問題かなと思いました。

では副会長、富合代表ということでよろしくお願いします。

(平井副会長)

富合は、南区役所を中心として住宅人口が増えており、1万人を超えております。小学校もマンモス化している状況です。その反面、周辺は過疎化、高齢化が進んでいる地域があります。自治会は22地区あり、会長が1名ずつおります。月1回定例会を開催して、課題解決と情報交換をしながら進めております。自治協議会では年3回、6部会を設けて各行事等を実施しています。

農業関係が主ですけども、高齢化が進んで、私の住む釈迦堂は、農家が15軒のうち専門的にされているところは2軒しかありません。耕地整理が早くから進み、基盤整備ができていますが、大型機械等が通るには道の狭さがあって、なかなか農業をする人が少ないという課題があり、これは富合全体、南区役所周辺の課題じゃなかろうかと思っています。

それから乗合タクシーの件ですが、釈迦堂を見ますと設置当時は利用者がちょっと増えたものの、あとは1桁台になっています。それから、小学校まで5キロくらいあって遠いところが3地区くらいあり、そういう課題も解決していきたいと思っています。

(柴田会長)

ありがとうございました。皆さんたくさんのご意見ありがとうございました。

もう1つ議題がありまして資料2、まちづくり推進事業について、事務局から手短にご報告をお願いします。

## ②令和3年度南区まちづくり推進事業の進捗状況について

### 【報告1(資料2)について事務局から説明】

(柴田会長)

ありがとうございます。この当初予算の1900万円については昨年度の最後の懇話会の場で皆さんにご意見をいただいていたところです。その後縮小となりましたが、やはり南区においてはこの防災関連は縮小できないということで、集約して実施に向けてやっているとということです。それからSNS講座をご紹介していただいたとおりです。

もう1つ懇話会開催経費及びまちづくりセミナーについては、報告3のまちづくりセミナー開催についてということと関係があると思います。報告3も含めて、事務局からご説明いただければと思います。

### ③報告3 まちづくりセミナー開催について

(事務局)

懇話会の中で色々なご意見をいただいておりますが、地域のほうでも今後、校区カルテを基にして、ワークショップ等を計画したいと思っております。

やはり新たなまちづくりにチャレンジしていこうということで、まちづくりの先進事例や、まちづくりをどういう方向にもっていくのかについて、まずは基本となるセミナーを開催したいと思っており、今年度秋頃に計画したいと考えております。

(柴田会長)

ありがとうございます。今少し話がありましたが、校区ごとにカルテを作ってらっしゃるそうです。校区ごとの特徴や課題といったものを網羅的にまとめたカルテですね。小学校区が全部でいくつあるんでしょうか。

(事務局)

21校区です。

(柴田会長)

21校区それぞれ作っていらっしゃるそうです。それに応じて、それぞれ校区でどんなまちづくりをするのかということセミナーという形でやったり、それからワークショップについて、これも各校区でやっていくと考えてよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。各校区で考えています。

(柴田会長)

ワークショップも各校区でやっていくということでございます。実はこの懇話会の場でも、何回か皆さんとともにワークショップをするという会も計画されておりますので、そういったものも実施していきながら、南区の新たなまちづくりというものを進めていければ

ということで計画されています。詳細が決まりましたらお知らせがあるかと思います。

私の意見として、セミナーについては1回で終わってはもったいない、あまり効果的ではないと思うんです。これは来年度以降もずっと継続していくものだと思います。1回ではなく複数回開催しながら来年度につなげるという形で、このセミナー、ワークショップを是非企画していただきたいということを私からの意見として申し上げたいと思います。

次に報告2、本年度の重点的な取組ということで3つありますのでご説明をよろしくお願いいたします。

#### ④報告2 本年度の重点取組について

(事務局)

本年度の重点取組ということで、3つ挙げております。

まず、乗合タクシーの利用状況について資料3を見ていただきたいと思います。空白地域の乗合タクシーの運行実績を載せています。先ほど平井副会長から話がありました、富合町 釈迦堂～富合駅については、令和元年度、令和2年度と利用が1人となっています。利用度が下がってきている、あるいは利用されていないというのは、大きな課題だと私たちも考えているところです。天明地区においては、令和元年10月にバス路線が廃止になったということで、他の地区と比べると若干利用が多くなっているというところで把握しております。今後、交通政策課とあわせて、地域ニーズを踏まえて検討してまいりたいと思っております。皆様のお話を聞きながら、そちらにつなげていきたいと思っております。

次に、終末期医療のセミナーに関しまして開催を計画しているところです。こちらについては、包括ケアシステムの推進方針に掲げておりまして、今年度の取組事業として6つの事業を考えており、その中の1つです。医療介護システム及び終末期医療に関する区民への啓発に取り組むこととしております。具体的な取組みとしては、モデル地域を選定いたしまして、終末期医療のセミナーを実施するというところです。モデル地域につきましては今後、南区の包括ケアシステム推進会議の中で決定して進めていきたいと思っております。またこのことについては、この会で報告させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後に、津波高潮危険地域の避難行動についてということで、天明飽田の一部地域に関しまして、非常に水害も多いというところで、あわせて高潮のときにどういった避難行動をした方がいいのか、災害の規模に応じた皆さんの避難行動の在り方について、検討していきたいと思っております。地元の皆さんをはじめ、まちづくりセンター、私達も含め、一緒にやっていきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

(柴田会長)

ありがとうございました。

報告3点を非常に駆け足でご説明いただきました。これだけはちょっと聞いておきたい、言っておきたいということがあれば、もう1人、2人から伺いたいと思っておりますがいかがでし

ようか。はい、正木さん。

(正木委員)

いろんな地区にまちづくりセンターがあるわけですが、同じまちづくりセンターでも地区ごとに違うと思うんですよね。地域に根付いた文化などが違うんですけど、それを生かしてその地域のいいところ取りじゃないけど、それぞれ交流して意見を聞きながら活性化していくやり方ができたらなと思います。

(柴田会長)

ありがとうございます。まちづくりセンター同士で情報交換などをされているんですか。

(江区長)

以前から連携はとれていたと思うんですが、今年に入ってから6まちづくりセンターそれぞれの地域担当職員が集まって、私も参加させていただいて、色々な勉強や意見交換、あるいはこういったやり方でうまくいったという事例紹介等を行っているところでございます。

(柴田会長)

ありがとうございます。是非そういった場を進めていただいて、皆さんの取組みが少しでも良くなっていったらいいかなと私も思います。

(平井副会長)

乗合タクシーの件ですが、今後の見直しについて考えがございますか。

(江区長)

乗合タクシーに関しては、非常に利用者が低迷しているということは所管である本庁の都市建設局も十分承知しておりまして、今見直しに向けて進んでおります。私ども区役所としては、地域密着という形で、既に住民の方々にインタビュー調査を実施しているところでございます。対象者約20名に、1時間ぐらいかけて色々な事を聞いて、高齢者の方々に対して移動手段に関する課題を調査しているところです。それについては報告書をまとめて、関係機関等にも提示して、よりよい制度の在り方に役立てていければなと思っているところです。

(柴田会長)

利用者が減っているのは、ニーズがないという問題と、それから仕組みが悪いという問題と、多分二つあると思うんですよね。ぜひそこを精査していただいて、見直しにつなげていただきたいと思います。これは意見ということでございます。

その他いかがでしょうか。

(宮崎委員)

まちづくり推進経費のお話もありました。資料 1-1 で、将来を見据えた新たなまちづくりへのチャレンジという3つの方向性が示されました。行政としても、お金もないし人員も割けない。その中でまちづくりは自治会やPTA、その地域の方々にやってくださいということで、今現在その民生委員さんや自治会長さんの負担が非常に重くなっているという課題がありました。そして、こちらの資料 1-2 南区の課題という90ページぐらいに及び資料で、今後なかなか大変な状況が続くということが理解できたわけです。これからの取組みで新たなまちづくり組織への支援という話がありました。私自身、色々な企業とのつながりの中で感じることは、皆さん持続可能性ということでSDGsということを頻繁におっしゃいます。企業も自分たちの利益や儲けということだけでなく、地域に対する貢献ということも非常に重視されているような状況でもありまして、企業側としてもまちづくりや、地域に対して貢献したいというニーズが非常に高まっています。そんな中で、幸田まちづくりセンターの皆さんと協力して、「幸田まちづくりサポーター」というゆるいつながりで、何か具体的にこれをやってくださいということじゃなくて、何かできることがあったら協力しますというまちづくりサポーター制度というものがあるんですけど、これについて地元幸田地区の企業さんを、私にご紹介してサポーターになっていただいています。ここが一つの協議体となって、諸課題あると思いますけど、これならできる、この事業なら私たちも協力できるということがあると思うんです。ですから南区としても全体で、そういう自治会、PTAだけじゃない新たなまちづくりの担い手の育成、発掘、そして連携するための受け皿を、ぜひ実現していただきたいと思っております。またこのまちづくり懇話会ももう5期ということで、そのOBの皆さんが実際今どういうことをやられているのか。やはり圧倒的に人が足りない状況です。動ける人が足りない状況なので、総力を挙げてやっていかないといけない時期なのかなと思っておりますので、ぜひ区長も含めてご検討いただきたいと思っております。

(柴田会長)

どうもありがとうございました。そうですね、SDGs絡みは、国も予算をたくさんつけていますから、そこを使うというのはすごくいいポイントだと思います。実はこの懇話会のOBもたくさんいるんですよ。その方々の知恵も拝借するというのは確かに必要なことだと思います。

大幅に時間をオーバーしてしまいましたが、今日も非常に活発なご意見をいただきありがとうございました。私からは以上とさせていただきます。事務局の方にお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。